

16. 多様な担い手の参入による 繁殖生産基盤強化の取り組み

北部振興局 生産流通部 畜産班
○照山友美子

1. はじめに

北部管内の2015年における繁殖牛飼養農家戸数は85戸、子取り雌牛頭数は1,177頭であり、高齢化や担い手不足等の理由により年々減少傾向にある。今後も高齢農家を中心に多くの廃業する小規模農家が出てくることが予想され、繁殖生産基盤の弱体化が懸念されている。

北部管内における肉用牛家畜飼養状況

	2009年	2013年	2015年
繁殖雌牛頭数	1,420	1,221	1,177
農家戸数	123	88	85

北部管内における農家年齢層

	～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	71～80歳	81歳～
年齢層 (%)	3.6	8.3	27.4	27.4	26.2	7.1

一方で、管内では放牧経営を始めたいという新規就農者や繁殖経営に取り組みたいというコントラクターからの相談があるなど、多様な担い手が参入する動きがあるの
で2016年12月の現在時点における現地の状況を報告する。

2. 新規参入者の概要

(1) 豊後高田市のアグリチャレンジスクール研修生

豊後高田市では2015年から新規就農者の育成を目的とした「アグリチャレンジスクール・新規就農コース」を設けている。当スクールでは先進農家で技術を学ぶことができるほか、月2回、経営や農地法などの講義が受けられる内容となっている。また、空き家の情報提供や放牧可能な土地の紹介といった支援も受けられる。

その畜産分野の研修先の1つが(有)富貴茶園である。(有)富貴茶園は11年前から遊休茶園を放牧地として活用しており、この取り組みが一昨年度の全国自給飼料生産コンクールにおいて農林水産大臣賞を受賞するなど、放牧の優良経営体として全国にも名を知られる農家である。以下の2戸はこの(有)富貴茶園での研修を通じた参入者である。

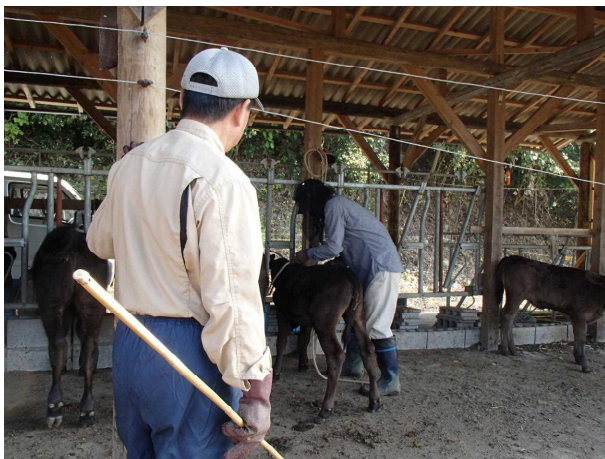
① Iターンの新規就農者 豊後高田市 SA氏（46歳）

(有)富貴茶園をテレビ放送により知ったことがきっかけで沖縄県から移住してきたSA氏は、(有)富貴茶園で1年間研修を受けた後、2016年9月に経営を開始した。元々サラリーマンであったため機械の操作や牛舎の構造など初めは何も分からなかったが、(有)富貴茶園や地域の関係機関から積極的に学び、熱心に経営に取り組んでいる。現在は繁殖牛6頭を飼養しており、将来は20頭規模の経営を目指している。

② Iターンの新規就農者 豊後高田市 KA氏（36歳）

元々田舎に移住することを考えていたKA氏は、(有)富貴茶園での農家民泊をきっかけに東京都から移住してきた。彼の決断には既に研修を受けていたSA氏からの後押しがあったことも大きく影響している。現在は夫婦で研修を受けており、2017年9月に就農する予定であり、将来は20頭規模の経営を目指している。

(有)富貴茶園とこうした研修生の間には良い関係性が築けている。(有)富貴茶園はSA氏の研修終了後も放牧地造成の助言をしたり、KA氏の放牧候補地の調査に同行したりするなど指導者としての意識も高まっており、地域の関係機関としても、今後も研修受け入れ農家として大いに活躍を期待している。



(有)富貴茶園で研修中



放牧候補地の調査

(2) Iターンの新規就農者

③中津市 KO氏 (30歳)

中津市のKO氏は第三者経営継承事業を活用した就農を志して、2012年に広島県から移住したが、移譲希望者との条件が合わずに破談となった。一度は帰郷することも考えたが、地域で暮らした2年間で築いた近隣の農家との繋がりがあつたため地域に残ることを決断し、近隣の遊休牛舎を借り入れて就農した。現在は繁殖牛17頭を飼養しており、将来は30頭規模の経営を目指している。

(3) コントラクターの参入

④豊後高田市 OH氏 (41歳)

豊後高田市のOH氏は、米麦や野菜、ライスセンター、コントラクターといった多角経営を営んでいる。稲ワラ等の販売を通じて畜産農家との繋がりが培われ、情報交換を頻繁に行っていくなかで、稲ワラや籾殻等の水田経営副産物の活用により低コスト生産が可能ではないかと考え、周年を通した収入を得ることができることもあり、畜産経営への参入を決断した。2016年12月からの経営開始を予定しており、将来は100頭規模の夢を描いている。

⑤宇佐市 NA氏 (31歳)

豊後高田市のOH氏と同様の理由で参入したNA氏は、父親の代に使用していた遊休牛舎を活用して2016年10月から経営を開始した。現在は繁殖牛10頭を飼養しており、将来は30頭規模の経営を目指している。

(4) 他業種から放牧経営に参入

⑥中津市 HA茶園組合

茶業を営むHA茶園組合は、管理することが困難となった遊休茶園の活用を目的に放牧経営に取り組んだ。2015年4月に畜産研究部の支援を受けてレンタカウの放牧から始め、2015年7月に繁殖牛を購入した。その後徐々に頭数を増やし、現在は繁殖牛4頭を飼養しており、将来は10頭規模の経営を目指している。

⑦豊後高田市 MU氏 (48)

豊後高田市のMU氏もHA茶園組合と同様の理由で放牧を検討している。

参入農家まとめ

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
農家名	S A	K A	K O	O H	N A	H A 茶園組合	M U
年齢	45	36	30	41	31	—	48
経営部門	新規 就農	新規 就農	新規 就農	米麦、 野菜、 ライスセ ンター、 コントラ クター	米麦、 野菜、 ライスセ ンター、 コントラ クター	茶業	菌床 椎茸
行政区	豊後 高田	豊後 高田	中津	豊後 高田	宇佐	中津	豊後 高田
移住元	沖縄県	東京都	広島県	—	—	—	—
飼養管理 体系	放牧	放牧	舎飼い	舎飼い	舎飼い	放牧	放牧
経営開始 時期	2016.9	2017.9 (予定)	2016.4	2016.12	2016.10	2015.7	検討中
目標 飼養頭数	20	20	30	100	30	10	検討中
参入の きっかけ	(有) 富貴 茶園の 放牧に 共感	①と 同じ	第三者 経営 継承事業 の 活用	水田経営 副産物の 活用、複 合強化	④と同じ	遊休農地 の活用	⑥と 同じ

3. 普及員の役割

新規参入者の早期安定化に向けて、市役所や家畜保健衛生所、農協等の地域の関係機関と連携し、重点的な現地指導等を実施している。具体的には、経営開始前には土地の確保の相談や牧柵設置の支援のほか、導入牛選定の相談、資金の確保や補助事業の調整なども行っている。経営開始後には定期的に巡回を行い、牛の飼養管理指導や経営指導を行っている。



家畜保健衛生所との連携（衛生指導）



農業協同組合との連携（技術指導）

4. 将来の構想と今後の課題

管内では2001年頃から九州大学主導による放牧実証試験が実施され、これをきっかけに振興局が(有)富貴茶園を含めた「西高の農地を守る放牧の会」を立ち上げて新規参入者を育成した時期がある。これを「第1期新規参入期」とすると、市役所がアグリチャレンジスクールを開講して先進農家が新規参入者の育成に中心的に関わる仕組みを確立するなど、関係機関の協力体制や農家間の師弟関係が整いつつある現在の新規参入の動きは「第2期新規参入期」ともいえる。

今後はこうした多様な参入者を地域の関係機関が協力することで早期経営安定へと導くことが最も重要な課題となる。

成功事例を重ね、潜在的な担い手に向けて効果的に情報を発信し、次の新たな担い手の掘り起こしにつなげていくスパイラルを構築することができれば、繁殖生産基盤の強化はもちろんのこと、放牧の拡大による牧歌的な景観の創造や、農家間あるいは地域住民を巻き込んだ交流の活性化にもつながっていくことが期待され、肉用牛経営が地域活性化に大いに貢献できるのではないかと考えられる。

